



OPEN MEETING! 都市デザイン

郊外編 Area01 東山田準工業地域 vol.2

技術がすぐそばにある まちの学び



2017.03.28



このドキュメントは東海大学の視覚化チームがリアルタイムに記録したドキュメントです。すべての発言を正確に記録できていない箇所もございます。ご了承ください。

STAFF



株式会社スリーハイ
男澤 誠



モデレーター/コトラボ合同会社代表
岡部 友彦



横浜市都市整備局都市デザイン室
小田嶋 鉄朗



横浜市都市整備局都市デザイン室
野田 恒雄

会場のご提供



アルバートリック 社長

今年の3月1日に大田区から会社に移転して来ました。移転した日に小澤社長にお会いして、このような取り組みについてお聞きしました。

私たちは輸入車のアクセサリパーツを欧米から輸入し、全国のディーラーやカーショップに卸しています。この二階のエリアはショールームになる予定ですが、今回はタイミングがよく空いているスペースとなっておりますのでお貸ししたいと思います。

東山田でどのような協力ができるか、まちづくりをして行くか、どのような方々がお住まいなのか、知る機会になれば幸いです。

STEP 1

魅力発見

東山田準工業地域と地域内工場を歩き、教育素材となる魅力や特徴を探します。



街を聞こう 街を見よう

動夢計画



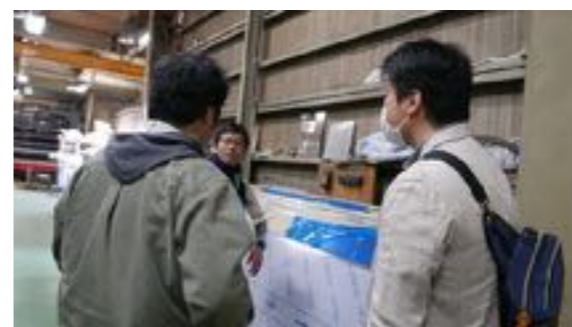
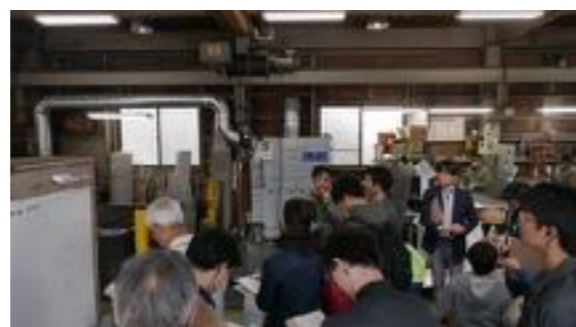
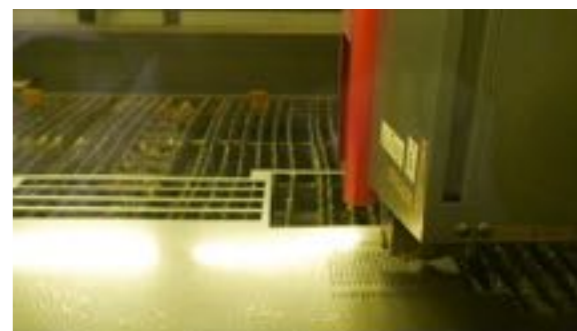
街を聞こう 街を見よう

フラワークリーニング



街を聞こう 街を見よう

フジプロテック



STEP 2

課題共有

教育委員会事務局や近隣小中学校の教員の方より、現在取り組んでいる総合学習の取り組みや課題を紹介してもらいます。

INSPIRATION TALK 1

横浜市教育委員会事務局指導部
指導企画課主任指導主事

後明 好美 様



現在の教育においては、自己肯定感が少ないという課題や地域の人たちから学ぶ機会が少ないという課題がある。

今、社会に開かれた教育が求められている。そして、教育自体が社会を作っていくと言われている。学校は内弁慶なところがあり、社会とつながることに時間がかかる。しかし、私たちはキャリア教育を担当しているので学校で考えている以上に教育に協力的な人が多い。

学校と外部の人たちが出会う場づくりとしてはまっ子未来カンパニープロジェクトがスタートした。キャリアづくりを自分づくりの教育として推進している。

また、クラウドファンディングのローカルグッド横浜を使い、国や行政の予算を待たずに、シンポジウム予算を集めた。

事例

浦島小学校

三河町自分たちで販路を築く

能見台小学校

防災マップづくり&2泊、大学の体育館に泊まって朝そのまま授業を受ける

戸部小学校

デザインにもこだわり地元の商店街のポスターを作る。子供がまさかのアイデアを出す

城郷小学校

マリノスの集客力アイデアを考えてマリノスに提案する。ポスターは子供の作品が活かされた

東山田小学校

B-CORSAIRS たくさんのアイデアを出してスタンプラリーが採用された

INSPIRATION TALK 2

東海大学 教養学部 芸術学科
専任講師

富田 誠



子供の創造性を伸ばすために
大人は何ができるか



ハッカソン

100円ショップの商品を分解し、全く新しい商品を考案するワークショップ。

ポイント

1. 分解
2. 創造性に対する自信
3. 反復型開発

事例



段ボールを使った基地作りワークショップ

東海大学教養学部芸術学科 下別府真子さんの取り組み



研究者のための視覚化WS

東北大学において開催された研究者自身が表現ができる（当事者デザイン）ことを目的としたWS



STEP 3

ディスカッション

グループごとに分かれて、東山田準工業地域でできる学びの可能性や具体的な取組について議論し、発表してもらいます。

学びのタイトル

学びの目的

学びの内容





チームゲームで対人スキルUP!!

いろいろな意見が出たが、最終的には子どもの成長を重視した。今の小学校では、人に対して自信が持てない、自分から発信する機会が少ない、対人スキルが足りないことが課題。マンツーマンが理想だが、人も足りない。地域の企業も子どもも混ざって、チームゲームのようにしてみる。

もうひとつの活動として、子どもたちが地域の人たちに向けて企業をPRを考えて発信して行く。

ふたつの活動を通して、社会の成り立ちや本物に触れて、子どもたちも大人も学んでいけるのが理想。最終的に自分から発信する力や対人スキルが身につくようになるのがゴール。



ものづくりで理解できること

廃材をどう活かすことができるか考える場を設けたり、廃材を知ることによってどのようにものが作られているのか遡って知ることで、ものづくりについて考えを深めるきっかけをつくる。

いろんな企業から集めた廃材スペース、物作りスペースなどがあると実験の場が生まれるが、反面、廃材の量や利用者の数など、管理する項目やコストなど解決しなければいけない課題も。

どんな企業からどんな廃材が出るのか共有されていないので、小学生に廃材の調査を協力してもらうことでよりものづくりに触れるきっかけを増やす。

ものづくりを人を中心に考えることで人づくりに繋がりたい。ものから学んで人を理解する機会をつくる。

例えば職人さんの姿勢を知ったりすることで、最終的に人間形成に繋がれば。



ゼロ円工作で地域とつながりを

現状の課題として、知らない子どもに声をかけるのは今の時代は繋がりが薄く難しい。地域で子どもを育てるという意識が薄れてきている。そんな中でも、工場見学などを通して声をかけられる関係になれるのが嬉しいという地域の声も聞く。

子どもと地域の出合わせ方はたくさんあるが、大人が出会いの機会を提供するのではなく、子どもが作りたいものを作っていく過程で、自主的に材料やノウハウを持っている人を学校の外で探してみようと行動に移せるのが自然の流れじゃないだろうか。

ものづくりを通して地域の人と繋がりが、気軽に声をかけ合える人間関係ができれば良いと思う。



とにかくやってみる!!

ここに地域の資源として準工業団地というものがあって、どこから入ると良いのか、どういう素材と関わるかっていった時に、なんでもいいのではないかと。きっといろんな使われ方ができるから、とにかくやってみることが重要。北山田は少し遠くなるけど畑や公園も多い。隣の小学校だけど、北山田小学校とも連携をとっていきたい。

地域を理解して、そこになにがあるか知ること。まだ始まったばかりだから、これからどんどんこのような活動を深めていくこと自体が重要なのではないか。

CheckOut



今日の気づきや発見を教えてください

準工業地域は面白い協力していきたいし注目している

苦情ではなく交流で解決する地域にほんのちょっとでもいいので協力したいなと思った

街に協力したい

学校教育は大切であり基本

交流することから始まる

考えていることがあっているか不安になるけど

みんなと話す自信が持てる

色々な人の意見を聞きながら協力していきたい

変化を楽しんでいきたい

社会の視点を大切にしながら物作りをする

交流の場が大切

企業が教育に対して協力的であると気がつけた

学校の先生が来ているのがいいな

教育と人の大切さ

積極的な雰囲気が新鮮

もの作りにやりがいを感じて欲しい

子供達の成長は自分たちにとって大切

このような場を絶えず続ける必要性あり

子供は新しいものを見るとキラキラする

物づくりだけでなく異文化交流の可能性もある

子供と創造性

大人の自分でも子供のようにワクワクした

小学生の視点で会社を見たときに気づきがあるのでは

CheckOut



今日の気づきや発見を教えてください



株式会社スリーハイ
男澤 誠

東山田に来ていただいたことに感謝している。人との繋がり、人づくりというキーワードが出て来た人づくり、世づくりのようなことを考えていた。人というキーワードが出て来て安心した。自分の居場所がここでいいと感じた。学校の先生は時間がない中で、教育をしなければいけない。これは学校だけで解決できない問題だと感じている。

今の子どもの65%は大学卒業時に今の職業についてない。その10年から20年後も47%が自動化されて仕事がないという状況になるかもしれない。だとしたら今のうちに手を打っておかなければいけない。自分の子どもが東山田、横浜、日本を盛り上げる取り組みができなにか。様々な人たちが関わらないとできない。



横浜市都市整備局都市デザイン室
小田嶋 鉄朗

横浜市をものづくりで復活させたいと思っていた。未来の都市計画、未来を担うものづくりというのは、人もいる、子どももいる、工場もある、学校もある、街もあるそこに人のネットワークがあるってところから絶対未来のまちづくりだっていうふうに確信して東山田に乗り込んできているので、これからもここで何かをやっていこうと思っています。



モデレーター/コトラボ合同会社代表
岡部 友彦

対人関係のスキルが落ちている、気軽に声をかけてはいけない地域関係を高めるための声をかけられるような、プロセスのデザインが必要なのではないか。具体的にどのように実現させるのかを考えるのが次のステップ。地域がOKだったら？学校がOKだったら進められるか、リソースがたくさんあると思った。